



なかやま えいじ
中山 英治 教授

“ 出身と名物へのひと言

名古屋市

きしめん食べとったら満足だがね ”

専門分野

日本語学・日本語教育学

Q 担当科目を教えてください。

A

【日本語教育法2】

本学部の日本語教員養成プログラムの必修科目の一つ。中上級レベルの外国人日本語学習者に日本語をどう教えるのか、4技能ごとの留意点や教材の分析などを行います。学期末には模擬授業を行い、授業参加者同士で評価します。

【日本語教育文法など】

こちらも日本語教員養成プログラムの必修科目の一つ。日本語学概論1・2や日本語教育法1・2で扱った日本語文法を文型（形態）と機能に着目して整理します。言語コーパスを使って日本語文法の実態も学びます。

Q 専門分野に関する研究テーマの魅力を教えてください。

A

日本語学に関しては、日本人も無意識のうちに使っている日本語の実態に触れることによって、驚きと不思議を体験できます。日本語教育学に関しては、海外の日本語教育現場における日本語母語話者と日本語非母語話者の協働について研究しています。日本語教育を社会・言語・教育の側面から包括的に捉えて、未来に必要な日本語教育人材の育成につながる知見を提供できるところが魅力の一つです。

Q**先生の人となりをお教えてください。****A****「今だから言える先生の学生時代のエピソードは？」**

別に隠すことではありませんでしたが、芥川龍之介にすっかり魅了されて、真似事で小説なんか書いていました。覆面作家を気取って創作部に投稿なんかしていましたね。ある時、図書館で創作中に原稿用紙のペンネーム（楯形龍之介）が部員に見つかってしまい、お縄に。それ以来、仲間と創作・批評に明け暮れていました。コトバに対する魅力を抱ききかけにもなりました。

「人生で一番・・・した時」

私は、人生の中で体重の増減がわりとある方ですが、人生で二度激ヤセをしたことがあります。一度目は、若い頃の「失恋」です。食事が喉を通らないという初めての経験でした。二度目は、タイに住んですぐの頃、まだタイ語もできず、屋台の注文もろくにできない時でした。「人間、生き続けるためには、食べなければならない」そんな当たり前のことを人生で二度思ったのでした。

「お休みの日には何をされていますか？」

時間があれば、テニスや書道のお稽古をしています。夏休みには、長野や富士山の3000m級の山に登ります。最近は、クロスロードバイクにはまり、琵琶湖や淡路島、しまなみ海道を突っ走っています。

Q**学生のみなさんへメッセージを！****A**

私は、仕事でタイ（バンコク）に住んでいたことがあります。初めての海外生活でしたし、タイの言葉も文化も何も知らない人間でした。未知の世界に入るのとはとても勇気がいることですが、学生のみなさんには知らない世界に足を踏み入れてもらいたいと思います。時には、忘れられない経験をしたり、胸にグサッと来る失敗もするでしょう。それがみなさんの糧に必ずなります。贅沢な大学生生活の時間を利用して、知らない世界へ飛び込んでください！